

# 第 5 章

## 都市機能の 充実したまちづくり

第 1 節	「都市計画」	適正な都市計画・土地利用を推進する	94
第 2 節	「公園・景観」	調和のとれた都市空間を形成する	96
第 3 節	「住宅」	安全で良質な住宅環境を推進する	98
第 4 節	「道路」	円滑で安全な道路網を整備する	100
第 5 節	「河川・治水」	災害に強い河川等を整備する	102
第 6 節	「上水道」	安全でおいしい水を安定供給する	104
第 7 節	「下水道」	下水道の普及促進を図る	106
第 8 節	「公共交通」	二次交通のネットワークを充実する	108

### 現状と課題

現在の土地利用は都市計画区域が7,541haあり、市域の約9割を占めています。また、用途地域は、都市計画区域の約2割となる1,539haを指定しています。用途地域の土地利用は、約半分が宅地（住宅地、商業地、工業地）として利用されており、用途地域の約15%を占める農地が残っています。

農用地の状況をみると、市東部では一団の農用地が形成されているものの、日野川以西については、幹線道路の沿道やその周辺において小規模な開発が行われ、農用地のスプロール化※が進行しています。さらに開発が進むことによって、営農環境や居住環境の低下が懸念されています。

今後の人口減少過程において、人口や施設が低密度に拡散した状況では都市の活力が低下し、運営コストも増大します。このため、既存ストックを活用したコンパクトなまちづくりなど効率的な都市運営を進めることで、安心して住み続けられる都市活力を維持する必要があります。

### 基本方針

人口が減少する中で、用途地域等の市街地を拡大させるのではなく、都市計画マスタープラン※に基づき、コンパクトなまちづくりを推進します。また、現在の農地を宅地化するのではなく、生活基盤が整った既存の市街地への誘導に努めます。

人口動態の変化はまちづくりに大きな影響を与えます。このことを地域住民と共有しながら、将来の鯖江市像を展望し、自然・歴史・伝統・文化などの地域資源を最大限に活かした誇りの持てるまちづくりを計画的に推進します。

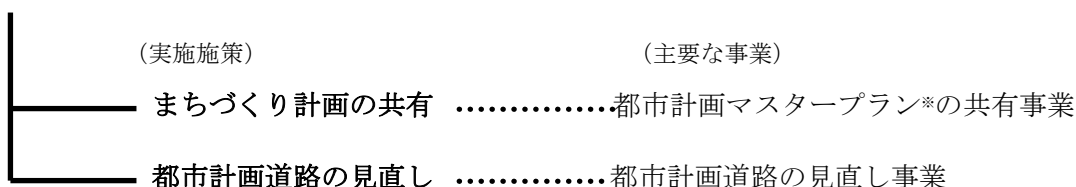
### 施策成果指標

数値化できる主要な成果指標が不存在のため、指標は設定しておりません。

## 施策体系

(基本施策)

適正な都市計画・土地利用を推進する



## 主要な事業の概要

事業名称	事業概要
都市計画マスタープラン*の共有事業	平成24年10月に策定した鯖江市都市計画マスタープラン*を都市計画に関する基本的な方針として、市民・企業・行政がまちの将来像を共有します。
都市計画道路の見直し事業	都市計画決定後、長期未着手となっている路線の見直しについて、地域住民と協議します。



■ 市街地を上空から望む

### 現状と課題

市内の都市公園はほぼ整備されています。特に西山公園、中山公園、大谷公園等は国の補助事業等を活用して整備され、それぞれが特徴のある公園として市民に愛されています。特に、西山公園については「道の駅西山公園」や「こぼんだらんど」が建設され、公園に来られる方への楽しみや便益性が向上するなど、通年型公園としての施設等の充実も図られています。今後は動物園レッサーパンダ舎の拡張や「こぼんだらんど」へのアクセス道の整備なども必要となります。また、市内192箇所の全公園を維持管理していくためには、財政状況の厳しい中、市民と協働で安全・安心で快適な都市空間の保持創出に努め、施設のライフサイクルコスト\*縮減を推進する必要があります。

### 基本方針

公園は潤いをもたらす緑の空間であり、災害時には人々の緊急避難地として機能する重要な社会資本であり、今後も自然環境や景観を大事にしながら利用者が安全で安心して活動できる環境づくりという観点から公園の充実を図ります。管理面では、ボランティアで施設管理や美化活動を行う里親制度の拡大により、維持管理費の縮減を図ります。

さらに、歴史や自然と調和した美しい景観を見て、歩いて、楽しむ街並み形成を目指すため、景観に対する市民意識の高揚を図る取り組みを継続し、市民や事業者と行政が協働で景観づくりに努めます。

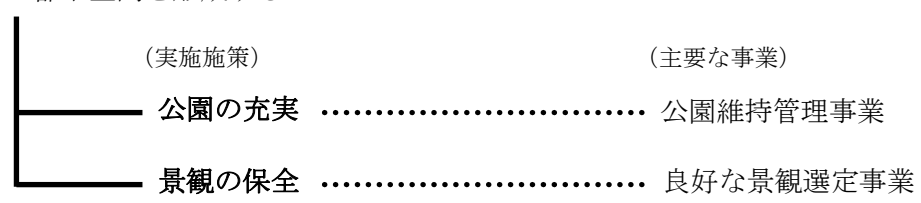
### 施策成果指標

指標名	内容	単位	現状値	目標値
公園里親制度の締結数	市が管理する公園の中で、里親制度による管理可能な公園のうち、未締結の6公園について里親制度の拡大を目指します。	箇所	76 (平成25年度)	82 (平成28年度)
良好な景観の選定箇所数	景観の保全を図るための指標として、市内の美しい景観の発掘を行い、景観百選の選定を目指します。	箇所	62 (平成25年度)	100 (平成28年度)

## 施策体系

(基本施策)

調和のとれた都市空間を形成する



## 主要な事業の概要

事業名称	事業概要
公園維持管理事業	良好な公園づくりを目的とし、歴史・文化資産を保全活用しながら、都市の快適な緑空間の創出を目指します。また、施設のバリアフリー化や老朽施設の長寿命化に努めます。
良好な景観選定事業	景観コンテストやイベント等を通して潤いのある美しい景観を発掘し、景観や環境に対する市民意識を高めながら、快適で潤いのある都市空間を創出します。



■ 西山公園 パンダらんど (こぱんだらんど)

現状と課題

人命を守る木造住宅の耐震化については、耐震診断・補強プランの作成は個人の費用負担が少ないため、概ね毎年予定件数を達成していますが、診断結果を受けての耐震補強工事を実施する人は多額の個人負担が必要となるため進捗状況が思わしくなく、地震発生時に木造住宅の倒壊等による災害が心配されます。

また、市営住宅は築後30年以上経過の住宅を中心に施設・設備の老朽化による不具合が目立つようになっており、個別補修とともに計画的な長寿命化型改善を行うことにより、建物の耐久性・安全性を向上し、良質なストック形成を図る必要があります。

基本方針

鯖江市建築物耐震改修促進計画に基づき木造住宅の耐震化を促進するため、耐震改修に対する助成制度の継続、強化に努めるとともに、積極的な啓発PR等に努めます。また、市営住宅については効率的な維持管理に努め、鯖江市営住宅長寿命化計画のもと、屋上防水・外壁改修等の長寿命化事業のストック改善工事を行い、市営住宅の住環境の整備と良質なストック形成を図ります。

なお、耐用年数が経過している木造住宅・簡易耐火構造平家建については募集を停止し、入居者が退去後、用途廃止を行います。

施策成果指標

指標名	内容	単位	現状値	目標値
木造住宅の耐震改修戸数	安全な住宅への改修促進を図るための指標として、鯖江市建築物耐震改修促進計画の目標耐震化率90%となるよう、木造住宅の耐震改修の促進を図ります。	戸	38 (平成25年度)	60 (平成28年度)

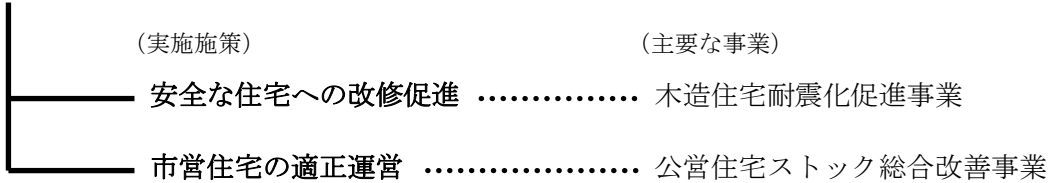


■ 木造住宅の耐震改修工事

## 施策体系

(基本施策)

安全で良質な住宅環境を推進する



## 主要な事業の概要

事業名称	事業概要
木造住宅耐震化促進事業	昭和 56 年 5 月以前に建築された一戸建て木造住宅の耐震診断・補強プラン作成に対して補助を行うとともに、診断の結果、耐震性能が劣る住宅の耐震改修工事を行う場合に、工事に要する費用の一部を助成することにより、耐震化を促進し、地震発生時の木造住宅倒壊等による災害を防止します。
公営住宅ストック総合改善事業	市営住宅の住環境を改善するため、社会資本整備総合交付金を活用して、鯖江市営住宅長寿命化計画に基づき、屋上防水・外壁改修等の長寿命化事業のストック改善工事を進めます。



■ 市営住宅

## 第4節 「道路」…円滑で安全な道路網を整備する

## 現状と課題

本市は嶺北地方の中心に位置し、福井市や越前市に隣接した交通の要所となっています。市内は幹線道路や生活道路でほぼ網羅され、幹線道路として県道、市道合わせて約172.3kmが整備されています。しかし、国道8号、市道西縦貫線などの南北方向は概ね整備されていますが、JR北陸線や福井鉄道福武線が市内を南北に縦断し市街地を分断しているため、東西の連絡が悪い状況です。そのため、北野水落線などの整備により局部的には改良を図っていますが、観光客の利用の多い北陸自動車道の鯖江ICから西山公園へのアクセスはわかりにくい状況になっています。

一方、郊外の道路は、通勤や観光の道路利用が見込まれるため、丹南広域道や福井今立線などの改良整備が必要となっています。また、市街地では、学校・病院・文化施設などが集積し、歩行者や自転車利用も多く、安全対策などの環境整備など、安全な道路の整備が望まれています。また、冬季間の通行の確保や橋梁など老朽化した道路施設も多く、更新時期に来ているものもあり、施設の延命化を図っていく必要があります。

## 基本方針

市民の生活向上や広域観光による地域の活性化を図るため、福井市と越前市を結ぶ広域ネットワークを形成する県道の狭小部や急カーブ区間の解消を県と一体となって進めます。市街地では、学校・病院・文化施設も多く、歩行者や自転車の利用者が安心して快適に通行ができるように段差解消など、歩行者空間の創出、自歩道の延長などの環境整備を行います。また、冬期間の安全な交通確保として、道路幅員が狭く家屋が連坦しているなど、機械除雪の効率が悪い箇所や交通量の多い幹線道路において日野川用水や山水などを活用した消雪施設の整備を進めます。さらには、既設の消雪設備の更新整備など関係機関と連携して維持確保していきます。

道路橋梁については、施設の延命化を図るため、長寿命化計画に基づき計画的な対応を進めます。

## 施策成果指標

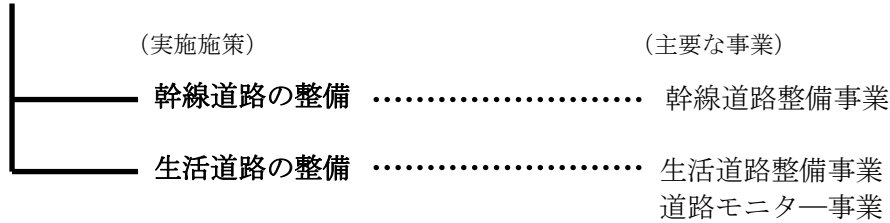
指標名	内容	単位	現状値	目標値
主要道路の整備率	【整備延長/計画延長】 円滑で安全な道路網を確立するための指標として、国・県道および主要な市道の整備率の向上を目指します。 ※計画延長=172.3km	%	78.4 (平成25年度)	79 (平成28年度)
歩道(段差解消)の整備率	【整備延長/計画延長】 安全で安心して通行できる歩行者空間を確保するための指標として、歩道(段差解消)の整備率の向上を目指します。 ※計画延長=201.2km	%	26.6 (平成25年度)	29 (平成28年度)



## 施策体系

(基本施策)

円滑で安全な道路網を整備する



## 主要な事業の概要

事業名称	事業概要
幹線道路整備事業	冠山峠道路、県道徳光鯖江線（道路改良）、県道福井朝日武生線（冬島地係）、鯖江美山線（金谷地係）、国道 417 号（本町地係の電線地中化・歩道整備）など、県と一体となって円滑な幹線道路の整備を行います。
生活道路整備事業	国道 417 号（神明地係、本町地係の歩道整備）や県道西尾鯖江停車場線（五郎丸踏切改良整備）、県道三尾野鯖江線（糺地係歩道整備）などの生活道路における歩道の段差解消に取り組むなど、県と一体となって、安全な道路の環境整備を行います。また、市道においても舗装や排水路の改良を行います。
道路モニター事業	市民が気付いた危険箇所などを市に報告していただき、速やかな対応を図ります。



■ 幹線道路の整備 … 歩道の段差解消（バリアフリー）丸山北野線

現状と課題

近年、地球温暖化等の要因により、全国的に集中豪雨による浸水や洪水被害が多発し、人命や都市機能に甚大な被害をもたらしています。本市には、日野川をはじめ一級河川が50.9km（11河川）流れており、過去に幾多の水害を起こしてきたことから、浅水川や鞍谷川などの河川および雨水排水施設、農業排水施設等の整備を進めてきました。しかし、福井豪雨時に最も被害の大きかった河和田川流域においては、部分的な改良しか実施されておらず、本格的な改修が望まれています。また、排水ポンプの容量が小さいところもあり、宅地開発などにより急激に河川等の水位が上がるなど危険度が高まっており、雨水幹線をはじめとする雨水排水施設や農業排水施設の整備、論手川や神通川等の準用河川の対策を検討する必要があります。

一方、日野川等では立木が繁茂している区間もあり、準用河川を含め適正な河川環境の維持が必要となっています。

土砂災害についても、福井豪雨時に土砂や流木が流出し、大きな被害をもたらしました。その後砂防事業を実施してきましたが、未整備の箇所も多い状況です。

基本方針

市民のかけがえのない生命や財産を水害から守り、都市機能の充実したまちを実現するため、鞍谷川、河和田川、吉野瀬川の改修に努めるとともに、水落舟津雨水幹線をはじめとする雨水排水施設や農業排水施設の整備などのハード対策を行います。また、日野川西部地区の論手川等の準用河川の対策を検討します。

近年のゲリラ豪雨\*は、計画以上の規模であるため、農家の方々のご協力を得ながら田んぼに一時的に水を貯めることで洪水被害を軽減する田んぼダム事業や、水門の管理、側溝・雨水枡の泥上げなど、市民による身近な対策や宅地から雨水の流出を抑制する雨水貯留施設等の設置を推進し、被害の軽減を図ります。

日野川や支川の準用河川等については洪水に備え、県と一体となって適正な河川環境の維持に努めます。また、県と連携して砂防ダムを建設するとともに、危険箇所の明示や警戒避難体制の整備などのソフト対策も行い、土砂災害の防止、軽減に努めます。

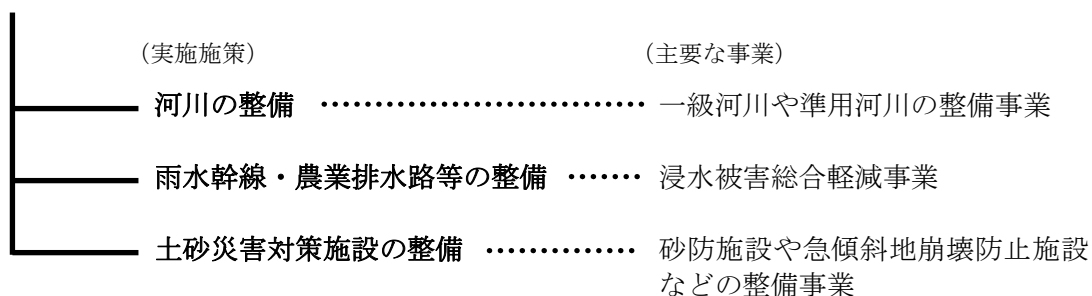
施策成果指標

指標名	内容	単位	現状値	目標値
河川施設の整備率	【河川施設の整備延長／全体延長】 市民の生命財産を守る河川の整備を図るための指標として、河川の整備率の向上を目指します。 ※全体延長＝50.9km	%	59.1 (平成25年度)	62 (平成28年度)
雨水幹線等の整備率	【雨水幹線等整備延長／全体延長】 災害に強い安心して住める街づくりを推進するための指標として、雨水幹線等の整備率の向上を目指します。 ※全体延長＝36.4km	%	44.4 (平成25年度)	45 (平成28年度)

## 施策体系

(基本施策)

災害に強い河川等を整備する



## 主要な事業の概要

事業名称	事業概要
一級河川や準用河川の整備事業	鞍谷川、吉野瀬川などの改修を早期に進めるとともに、一級河川や準用河川の適正な環境の維持等を県と一体と行っていきます。
浸水被害総合軽減事業	鯖江市総合治水基本計画に基づき、浸水被害の軽減を図る為、雨水ポンプ場や雨水幹線、農業排水路、雨水排水施設等の整備に取り組みます。
砂防施設や急傾斜地崩壊防止施設などの整備事業	赤谷川、西出川、荒木川などの砂防施設や急傾斜崩壊防止施設等の整備を県と一体と行っていきます。



■ 河川改修工事 … 河和田川（落井町）

### 現状と課題

本市の上水道は、昭和35年に給水を開始して以来、都市基盤の重要施設として市民生活と都市活動を支えてきており、この間、4期にわたる拡張事業を進め、普及率100%になっています。しかし、近年の人口減や家庭、企業の節水など社会経済環境の変化により、水需要は減少傾向にある一方で、老朽施設の更新や改良期を迎え、厳しい経営状況が見込まれます。

また、暮らしの安全に対する関心が高まり、水道水に対しても一層の安全、安心が求められています。そのためには、水源の確保や施設の整備により、安全で良質な水を安定供給し続けるとともに、健全な経営に努めながら、効率的、計画的に事業を進めていくことが必要です。水道は市民生活や産業に欠かせない重要な施設であり、地震などの災害に強い施設整備や経営基盤の強化を図ることが求められています。

### 基本方針

安全で良質な水を安定的に供給するために、地震など災害に強い水道施設の構築として、重要路線の耐震整備や老朽管の更新を推進します。

また、水道水の安全を確保するため、水質検査計画により水質監視の強化に努めます。

さらに、水資源の有効活用や有収率の向上を図るとともに、県水の受水に伴い既存施設の統廃合を検討し、さらなる経営の効率化などに努め、公営企業として経営基盤の強化を図ります。

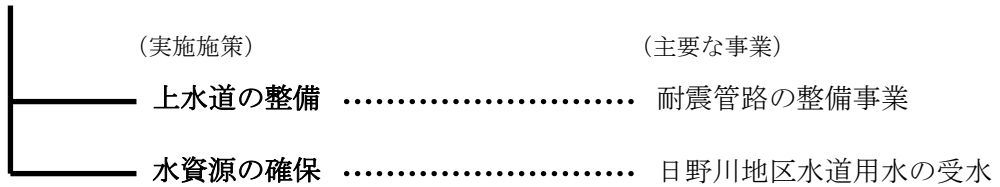
### 施策成果指標

指標名	内容	単位	現状値	目標値
耐震管路の整備延長	上水道の整備を図るための指標として、平成21年度策定の水道ビジョンに位置づけた重要路線の未整備区間(L=55,202m)について、計画に基づき整備します。	m	20,252 (平成25年度)	25,000 (平成28年度)

## 施策体系

(基本施策)

安全でおいしい水を安定供給する



## 主要な事業の概要

事業名称	事業概要
耐震管路の整備事業	重要施設や避難施設等への災害時における飲料水の給水を確保するために、重要路線において地震が発生しても機能を維持しうる強靱な耐震管路の整備を進めます。
日野川地区水道用水の受水	日野川地区水道用水より1日 20,000 m <sup>3</sup> を受水し、水資源の確保と水道水の安定供給に努めます。



■ 下新庄配水池

現状と課題

下水道が整備されても、未接続の状況では下水道本来の目的である生活環境の改善・水質保全の維持が達成できず、下水道の接続率の向上に努める必要があります。

また、下水道事業会計の健全化を図るため汚水管の未整備地区を認可区域から一部除外し合併浄化槽区域としました。これらの区域も合併浄化槽設置を推進し、公共用水域の水質保全を図る必要があります。

公共下水道は昭和58年に、農業集落排水は平成4年に供用開始をしており、いずれの施設も経年による老朽化等が生じてきています。すでに、公共下水道汚水処理施設（環境衛生センター）や農業集落排水処理施設（処理場）では改築工事を進めており、今後は、管路施設においても長寿命化を図るため、改築・修繕工事を進める必要があります。

基本方針

下水道事業の経営健全化には、各家庭の接続が一番重要なことから、水洗便所改造資金貸付制度の利用を促進しながら、接続率の向上に努めます。また、農業集落排水は処理場の余裕を再調査し、未整備の住宅団地等への管渠整備を進め、接続を促進します。

汚水処理施設については、長寿命化計画に基づき、改築工事を実施していきます。また、管路施設についても、予備調査に基づき施設の延命化を図れるように順次修繕工事等を実施していきます。

認可区域から一部除外した区域は、合併浄化槽の設置を促進し、公共用水域の水質保全を図ります。

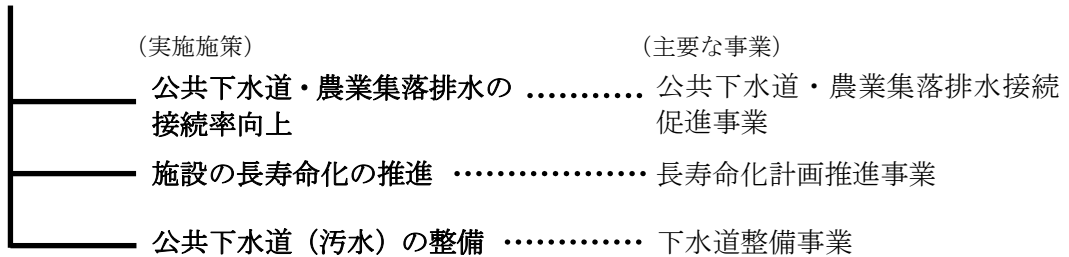
施策成果指標

指標名	内容	単位	現状値	目標値
公共下水道汚水処理施設の接続率	【汚水処理施設の接続人数／汚水処理施設の整備人口】 下水道の普及促進を図るため公共下水道汚水処理施設の接続率の向上を目指します。	%	92.9 (平成25年度)	93.5 (平成28年度)
農業集落排水処理施設の接続率	【農業集落排水処理施設の接続人数／農業集落排水処理施設の整備人口】 下水道の普及促進を図るため農業集落排水処理施設の接続率の向上を目指します。	%	86.3 (平成25年度)	92 (平成28年度)
合併浄化槽の設置基数	公共用水域の水質保全を図るため合併浄化槽の設置を促進します。	基	158 (平成25年度)	340 (平成28年度)

## 施策体系

(基本施策)

下水道の普及促進を図る



## 主要な事業の概要

事業名称	事業概要
公共下水道・農業集落排水接続促進事業	下水道事業の目的である水質保全の維持および下水道事業経営健全化のためにも下水道接続率の向上は不可欠であり、公共下水道や農業集落排水に合併処理浄化槽を加えた汚水処理施設への接続率の向上を目指します。
長寿命化計画推進事業	汚水処理施設については、長寿命化計画に基づき、改築工事を実施していきます。また、管路施設についても、調査に基づき施設の延命化を図れるように順次修繕工事等を実施し、事故の未然防止およびライフサイクルコスト*の最小化を図り、ストック活用型*社会を目指します。
下水道整備事業	認可区域内において汚水管の整備工事を行い、公共用水域の水質保全と生活環境の改善に努めます。



■ 鯖江市環境衛生センター



■ エアレーションタンク

現状と課題

つつじバスについては、平成22年度には新型車両を、平成24年度にはバスロケーションシステム（バスの位置情報）を導入するなど、高齢者の足の確保と利便性の向上に努めており、利用者数は着実に伸びています。

福井鉄道福武線については、鉄道事業再構築事業の認定を受け、平成21年3月から10年間、国・県・沿線3市の助成を受けながら経営再建を進めており、利用者数は着実に増加していますが、さらなる利用者増につながる取り組みが求められています。

JRの利用促進については、JR西日本金沢支社への陳情活動や鯖江市民号を実施し、特急の鯖江駅停車本数の増加や駅のバリアフリー化が進められています。

平成24年6月に金沢・敦賀間の着工が認可された北陸新幹線については、平成37年度末に開業予定です。本市には新幹線の駅が設置されないため、新幹線の最寄駅となる福井駅や南越駅（仮称）との接続やアクセス道路の整備など二次交通網の構築が今後の課題となり、既存のつつじバスを活かしたシャトルバス\*運行などの検討も必要となります。

基本方針

つつじバスについては、「地域に活かされるバス」と位置づけ、環境に配慮した交通体系の確立を目指すとともにソフト・ハード両面から充実を図ります。特に高齢者の移動手段の確保と利便性の向上に重点を置き、より一層の市民ニーズに応えた移動手段の確保を目指します。

福井鉄道福武線については、住民の大切な公共交通機関として沿線3市が連携し、より一層の利用促進を図るとともに、ソフト・ハード両面での利便性を向上させながら平成29年度を目処に年間利用者200万人台を目指します。

JRの利用促進については、鯖江駅の充実とビジネス客や観光客を中心としたJR鯖江駅乗車人数の上乗せを図り、特急列車の鯖江駅停車本数のさらなる増加を目指します。

北陸新幹線については、開業による本市への影響を最小限に食い止めるため、新幹線と連携した二次交通の構築や本市のものづくり産業をはじめ、歴史、伝統、文化、自然など地域資源を活用した魅力あるまちづくりを検討します。

施策成果指標

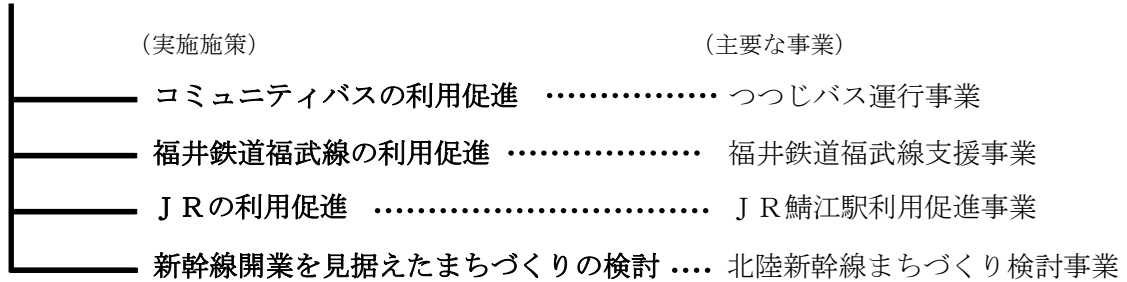
指標名	内容	単位	現状値	目標値
つつじバス利用者数	つつじバスの利用促進を図るための指標として、バス利用者の増加を図ります。	人	195,691 (平成25年度)	200,000 (平成28年度)
福井鉄道福武線鯖江市内駅利用者数	福井鉄道福武線の利用促進を図るための指標として、市内駅利用者数の増加を図ります。	人	473,320 (平成25年度)	520,000 (平成28年度)



## 施策体系

(基本施策)

二次交通のネットワークを充実する



## 主要な事業の概要

事業名称	事業概要
つつじバス運行事業	つつじバスを円滑に運行するために利用促進PRやアンケートを実施することで利用者の意見を把握し、より一層市民に愛され親しまれるバスとなるよう努めます。また、北陸新幹線の開業を見据えて、つつじバスを活かしたシャトルバス*の運行についても検討します。
福井鉄道福武線支援事業	国・県および福武線沿線3市による再建スキーム*に沿った支援を実施します。また、J R福井駅までの延伸や福井鉄道とえちぜん鉄道との相互乗り入れが決定している中、沿線住民等のサポート団体と協議し、より一層の利用促進に努めます。
J R鯖江駅利用促進事業	J R鯖江駅や鯖江公共交通・観光振興市民の会等と連携し、鯖江駅の充実とビジネス客や観光客を中心としたJ R鯖江駅乗車人数の上乗せを図ります。また、J R鯖江駅の利便性向上のためバリアフリー化を図るほか、長期間利用されていない2階の空きスペースについては、市民協働パイロット事業*として「えきライブラirie」を設置し、駅の賑わい創造に努めます。
北陸新幹線まちづくり検討事業	敦賀開業を見据えて、本市の魅力あるまちづくりを創造するため、「鯖江市の新幹線開業を見据えたまちづくり懇話会」で、最寄駅の福井駅や南越駅(仮称)へのアクセスなど新幹線と連携した二次交通の構築や地域資源を活かしたまちづくりについて検討します。



■ つつじバス



■ 福井鉄道福武線



■ JR 鯖江駅東の街路